

貸借対照表の見方

(単位：千円)

流動資産	流動負債
固定資産	固定負債
	純資産

科目区分		金額
流動資産	当座資産	19,550
	棚卸資産	8,350
	その他	100
計		28,000
固定資産		36,300
繰延資産		0
総資産		64,300
流動負債		12,400
固定負債		38,200
引当金		0
純資産		13,700
総資本		64,300

(自己資本比率 21.3%)

使途と源泉

上記表の左半分(借方)は、資金の使途(使い道)を示しています。
流動資産は、下記のように区分されます。

当座資産	の順に	
棚卸資産		換金性が高くなっています。
その他流動資産		(が最も換金性が高い)

上記表の右半分(貸方)は、資金の源泉(調達方法)を示しています。
純資産は **自己資本** ともいわれ、資本金と利益の留保額により構成されています。
自己資本を強化することが重要です。
純資産以外は **他人資本** ともいわれ、他からの借入と考えられます。

運転資金と設備資金

上記表 の部分により、自社の運転資金を把握することができます。
流動資産から流動負債を差し引いた部分を **正味運転資金**といいます。
正味運転資金が豊富であれば、日常の資金繰りは楽だといえます。ただし、多額の不良在庫を抱えているような場合は、その分は除外して考える必要があります。

上記表 の部分により、自社の設備資金を把握することができます。
固定資産(設備投資)に投入された資金は固定化されます。
したがって、**長期資本**(純資産・固定負債・引当金)により調達されることが重要です。